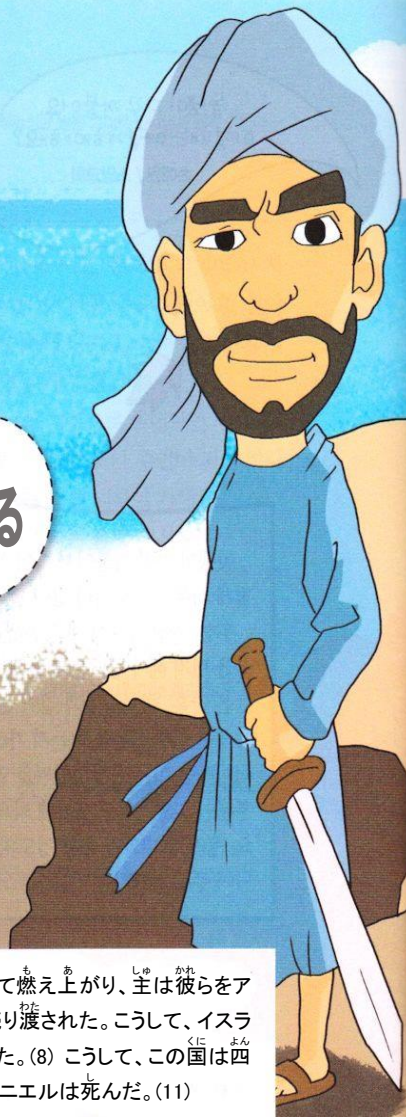


1か

オテニエル かみさまは ちからである



士師3:8~11 それで、主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをアラム・ナハライムの主クシャン・リシュアタイムの手に売り渡された。こうして、イスラエル人は、八年の間、クシャン・リシュアタイムに仕えた。(8) こうして、この国は四十年の間、穏やかであった。その後、ケナズの子オテニエルは死んだ。(11)

1. オテニエルはだれが持っていた契約を持っていたのですか

- 1) カレブはヘブロンを相続地として受けました(ヨシュア14:6~15)
- 2) カレブはキルヤテ・セフェルを征服したオテニエルを婿にします(士1:13)
- 3) オテニエルはカレブの契約を受け継ぎました(ヨシュア15:16~19)

2. カナン入国の主役はだれでしたか

- 1) ヨシュアとカレブのように信仰の人を用いられました(民14:1~10)
- 2) カレブは信仰の告白をして、一番難しいアナク山地を征服しました(ヨシュア14:6~15)

3. アナクとの戦闘の実際的な主役はだれでしたか

- 1) オテニエルはキルヤテ・セフェルを取りました(ヨシュア15:16~17)
- 2) オテニエルはアナクとの戦闘の主役になりました(士1:13)
- 3) 神様はオテニエルを士師として立てて、クシャン・リシュアタイムの手にて救われました(士3:7~11)



こどもが しるべき ししき

士師記の背景を知ろう

士師記は、イスラエルを治めて救った12人の士師と、神様のみことばに不従順にすれば、神様はどのようにさばかれるのかが記録されています。イスラエルはヨシュアが死んだ後、360年あまりの間、神様のみことばに不従順に生きていました。しかし、イスラエルが神様に悔い改めたとき、神様は士師を通して、イスラエルを救われました。



こどもが しるべき ししき

聖書を黙想しよう

ヨシュアが死んだ後、イスラエルの民は、政治、社会、霊的に弱くなってしまいました。イスラエルの民には、神様がくださった律法と祭壇を築くことがあり、各部族ごとに長老がいました。イスラエルの民は、みことばを伝える祭司と長老がいたのですが、まったく神様のみことばを信じませんでした。士師記が書かれる前の時代の民を理解して、士師記3章8節から11節のみことばを読んで、神様が私にくださろうとするみことばなにかを黙想してみましょう。





士師4:1~4 その後、イスラエル人はまた、主の目の前に悪を行なった。エフデは死んでいた。それで、主はハツオルで治めていたカナンの王ヤビンの手に彼ら売り渡した。ヤビンの將軍はシセラで、彼はハロシェテ・ハゴイムに住んでいた。彼は鉄の戦車九百両を持ち、そのうえ二十年の間、イスラエル人をひどく圧迫したので、イスラエル人は主に叫び求めた。そのころ、ラビドテの妻で女預言者デボラがイスラエルをさばいていた。

1. 危機を防ぐ男がいない時代でした

- 1) 主の目の前に民は悪を行ないました(士4:1)
- 2) カナンの王ヤビンの手に国が売られました(士4:2)
- 3) 鉄の戦車九百両を持ち二十年の間、イスラエル人をひどく圧迫しました(士4:3)

2. 女を用いられた神様の働きです(士4:4)

- 1) ラビドテの妻でした
- 2) 女預言者でした
- 3) 士師でした

3. デボラの業績があります

- 1) イスラエルを立派に裁判しました(士4:5)
- 2) バラクを通してシセラを退けました(士4:5~23)
- 3) イスラエルの母と呼ばれました(士5:7)



せいしょ
聖書クイズ

01

ベテルの以前の^{いぜん}の名前は？（士師 1:23）

02

ヨシュアは何歳^{なんさい}まで生きましたか？（士師 2:8）

03

女^{おんな}預言者^{よげんしゃ}としてイスラエルの士師^{しし}になった人^{ひと}は？（士師 4:4）

04

タボル山^{さん}の戦^{たたか}いでデボラとともにいた人^{ひと}は？（士師 5:15）

05

デボラとバラクの^{のち}後、イスラエルは何年間^{なんねんかん}、穏やか^{おだ}でしたか（士師 5:31）

せいしょ もくそう
聖書を黙想しよう

ヨシュアが死んだ^し後^{のち}に、士師記の時代^{ししき じだい}には王^{おう}がいなくて、王の代わりをする士師^{しし}がいた時代^{じだい}でした。国^{くに}に王^{おう}がいなかった^おので、政治^{せいじ}、社会的^{しやかい}に不安^{ふあん}な時期^{じき}でした。士師は王の代わりをして、民^{たみ}が罪^{つみ}を犯^{おか}したり紛争^{ふんそう}が起きたとき、それをさばいてくれました。また、民^{たみ}を治^{おさ}めて裁判^{さいばん}する軍事的な役割^{やくわり}を担当^{たんとう}しました。このような混乱^{こんらん}していた時期^{じき}に、イスラエルの民^{たみ}は異邦^{いほう}の民族^{みんぞく}にならって、偶像崇拝^{ぐうぞうすうはい}をして神様^{かみさま}を遠ざけたのです。しかし、神様の力^{ちから}に頼^{たよ}って、神様の戒め^{いまし}を守^{まも}ったときは、どんな困難^{こんなん}も克服^{こくふく}することができました。人間^{にんげん}は自分^{じぶん}では、どんなものも守^{まも}ることはできません。しかし、神様に頼^{たよ}る人は必ず勝利^{しょうり}することができます。士師記4章1〜24節^{ししき しょう 1〜24}を読みながら、唯一^{ゆいいつ}の私^{わたくし}たちの王^{おう}である神様の心^{こころ}を分かるようにしてくださいと黙想^{もくそう}して祈^{いの}り文^{ぶん}を書いてみましょう。





士師6:11~14 さて主の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属するオフラにある榎の木の下にすわった。このとき、ヨアシュの子ギデオンはミデヤン人からのがれて、酒ぶねの中で小麦を打っていた。(11) すると、主は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」(14)

1. イスラエルはまた危機に会いました

- 1) 主の目の前に悪を行なったので、7年間ミデヤン人の手に渡されました (士6:1)
- 2) イスラエル人が種を蒔くと、ミデヤンが襲ってきました (士6:3)
- 3) 食べる穀物、飼っている家畜を奪っていきました (士6:4)
- 4) いなごの大群のように攻撃し、イスラエルを滅亡させようとした (士6:5)
- 5) イスラエルはミデヤン人の攻撃のために非常に弱くなって、落胆しました (士6:6)

2. そのとき神様はギデオンを呼ばれました

- 1) 主のために祭壇を築くようにと言われました (士6:25~27)
- 2) ギデオンはバアルの祭壇を取りこわしました (士6:28~32)
- 3) 彼は神様を信じる信仰によって300人を集めて雲の群れのようなミデヤンに勝ちました (士6:33~7:1)
- 4) ギデオンはエポデを作って彼の町に置き、彼が生きている40年の間はこの国は穏やかでした (士8:22~28)

3. 神様はギデオンを通して集めた300人の勇士をもってミデヤンに勝ちました (士6:33~7:1)



こどもが しるべき ししき

せいしょ か 聖書を書こう

し し き しょう せつ せつ
士師記6章11節から14節のみことばをよんで書いて、かみさま
おも なか きざ じかん も
思いの中に刻む時間を持ちましょう



こどもが しるべき ししき

せいしょ 聖書をおぼえよう

() の中^{なか}にはいるみことばをさが^{さが}して書^かこう

1. しゅ つか 主の使いがギデオンを士師として呼んだとき、ギデオンの答え^{こた}はなんでしたか

ギデオンは言^いった。「ああ、主^{しゅ}よ。()。ごぞん^{ぞん}じのように、わたし^{わたし}のぶんだん^{ぶんだん}はマナセのうちで最^もつと^{つと}よわ^{よわ}く、わたし^{わたし}はちち^{ちち}いえ^{いえ}いちばんわ^わか^かいのです。」(士師6:15)

...→

2. ギデオンはしゅ^{しゅ}のために、なにをきず^{きず}きましたか

そこで、ギデオンはそこ^{そこ}に主^{しゅ}のために()をきず^{きず}いて、これを()
と名づけた。これは今日^{けふ}まで、アビエゼル人^{じん}のオフラ^{のこ}に残^{のこ}っている。(士師6:24)

...→

3. しゅ^{しゅ}がギデオンにさいしょ^{さいしょ}にめい^{めい}じられたことはなんですか

その夜^{よる}、主^{しゅ}はギデオンに仰^{おほ}せられた。「あなたの父^{ちち}の雄牛^{おうし}、七歳^{ななさい}の第二^{だいに}の雄牛^{おうし}を取り、
あなたの父^{ちち}が持っている()、そのそばの()。そのとりで
のちようじょう^{ちようじょう}に、あなたの神^{かみ}、主^{しゅ}のためにいし^{いし}を積み^つんで()。あの第二^{だいに}の雄牛^{おうし}を
と^と取り、き^きりたお^{たお}したアシェラ像^{ぞう}の木^きでぜん^{ぜん}焼^{しょう}のいけにえをささげよ。」(士師6:25~26)

...→

4か

サムソン たいようの ひと



1. サムソンは聖霊に満たされて生まれました(自覚める、士師記13章)

- 1) 神様は彼の両親に強いお酒を飲まないように命じられました
- 2) 区別された身分として生まれる彼にかみそりを当てないように命じられました
- 3) サムソンは聖霊の満たしの中で生まれました

2. サムソンの人生の中には失敗と成功がありました

- 1) 自分の妻としてペリシテ人の娘を選びました(士14:1~4)
- 2) 聖霊の満たしの中で獅子を殺しました(士14:5~9)
- 3) サムソンは妻を奪われると穀物、ぶどう園、オリーブ畑を燃やしました(士15:1~5)
- 4) 復讐するためにペリシテ人を殺しました(士15:6~8)
- 5) ペリシテ人の人々が彼を縛った糸を解いて出て行きました(士15:14)
- 6) ろばのあご骨で、ペリシテ人千人に勝ちました(士15:15~17)
- 7) サムソンは遊女デリラに会って危機は始まりました(士16:4)
- 8) かみそりを当てて髪の毛を失って奴隷になりました(士16:5~22)

3. サムソンは失敗から再起します

- 1) ペリシテ人に物笑いとなりました(士16:23)
- 2) さらに手錠をかけられました(士16:25~26)
- 3) しかし彼は悟りを得て最後の時を迎えます
- 生きているときよりも多くの敵を殺して死を迎えます(士16:30)

せいしよ あんしやう
聖書を暗唱しよう

ししき かみ こ かみさま じゆうじゆん
士師記では、神の子どもは神様に 従 順 にして、神様の愛と統治の下で生きていく
ことが、いちばん 幸 せだと言っています。次の聖句を暗 唱 して、神様に 従 順 にして
生きて行くことができるように祈りましょう。

しゅ かれ
主が彼らのために
さばきつかさを起こされる場合は、
しゅ
主はさばきつかさとともにおられ、
そのさばきつかさの生きている 間
は、てき て かれ すく
敵の手から彼らを救われた。
これは、あつぱく くる もの
逼迫し、苦しめる者の
ために彼らがうめいたので、
しゅ
主があわれまれたからである。
(士師2:18)

せいしよ もくそう
聖書を黙想しよう

イスラエルの士師だったサムソンは、胎の中からナジル人として生まれました。そして、
ぶどう酒を飲むことができなくて、死体、きよくないものをそばに置かず、髪の毛を切るこ
とができない、聖別された生活を送るよう選ばれました。しかし、神様の祝福を受けた
サムソンが、世の中と区別された生活を送っていたのですが、一 瞬の失敗をおかして、ペリ
シテの捕虜になってしまいました。神様との約束を破ったサムソンは、結局、みじめな最後
をむかえるしかありませんでした。結局、サムソンは苦しみの中で、神様のみことばに頼っ
て生きていくときに、まことの祝福とまことの平安があるということを悟って、最後を迎え
ました。士師記13章1節から5節のみことばを読みながら、神様のみことばに 従 って、従 順
に生きていけるように黙想する時間を持ちましょう。

